



必要とされる経験が人生を変えた

夏の東京五輪、日本初の女子ボクシングチャンピオンの誕生に国中が沸いた。米子市出身の金メダリスト・入江聖奈選手。彼女に「からボクシングを手ほどきしたのが、米子市久米町にあるシュガーナックルボクシングジム（以下、シュガーナックル）会長の伊田武志さんだ。東京五輪の強化スタッフに任命され、日本ボクシング連盟女子強化委員長を務める、日本を代表する指導者の一人。優れた指導力が評価され、2017年に

文部科学大臣賞、鳥取県体育協会より優秀指導者賞を受賞した。伊田さんは1965年、境港市に生まれた。家庭環境が悪く荒くれた少年時代を過ごし、「将来ろくなもんにならない」といわれて育った。ボクシングとは、境港工業高校の部活動で出会った。数年後に控えた「わかつり国体」に向けて地元の経験者やOBからの指導を受けるも、個人戦で目立つ成績は残せなかった。ただ、そこで学んださまざまなフアイティングスタイルは、後の指導に大きく生きる。このときはまだ、知るよしもなかった。

と、どんな人でもみるみるうちに明るく前向きになっていった。登校拒否や無気力で親に連れられてしぶしぶ通うことになった子どもでもさえも、やがて目に輝きを宿すようになった。「体を動かしてサンドバッグに拳をぶつければ、スカットとして精神にいいんですよ」と伊田さんは笑う。

巻頭特集 シュガーナックルボクシングジム会長 伊田武志さん

「やればできる」を証明するボクシング教育

一見強面、だが笑顔はチャーミングで、全身から深い優しさがにじみ出ている。シュガーナックルボクシングジム会長、伊田武志さん。東京2020オリンピック金メダリスト・入江聖奈選手をはじめ、多くのチャンピオンを育ててきた。「ボクシングを通して、心と体の健康を促進し、感動の人生を創造する」を理念に掲げる伊田さんの人生と哲学を紹介する。

伊田武志さん

1965年境港市生まれ。株式会社クリエイティブサポート代表取締役、シュガーナックルボクシングジム代表。2017年文部科学大臣表彰、鳥取県体育協会より優秀指導者賞受賞。2018年日本ボクシング連盟より特別賞授与。JOC強化スタッフ、日本ボクシング連盟女子強化委員長。



シュガーナックルボクシングジム

米子市久米町253 YSP2F
0859-22-8567 / <https://sugar-j.co.jp>

info

卒業後、大手運送会社のドライバーに就職。体力があった伊田さんは配達が迅速で「すごいな、やっぱり君でないと」と、顧客に喜ばれた。「初めて人に認められたんです。うれしかったですね。一生懸命になりました」と振り返る。真面目に頑張れば人から必要とされる人間になれると実感できた経験は、大きな転機となった。

「やればできる」を伝えたい感謝される人を育てる

生まれ変わった伊田さんは、運送会社でがむしゃらに働いた後、米子市内で飲食店を開業。12店舗にまで経営の手を広げたところで、後継者に悩んでいたシュガーナックルの運営を引き継いだ。

当時、プロボクサーを育てるテレビ番組や格闘技イベント・K-1が人気で、しばしば「勝負しろ」と少年たちがやって来た。そんな少年たち、伊田さんは決まって「真っ当になれ」と説教をした。100人の社員を抱えるまでに変わった自分の経験が、青少年教育への思いを募らせた。社員の中には、過去に罪を犯した若者もいた。「職場で青少年健全育成をしていたのです。一生懸命やれば真っ当な人生が開ける。それをボクシングでも伝えたいかった」

「必要とされる存在」を自覚させるのが伊田さん流だ。ジムでは練習生に他の選手の練習相手させたり、ミットを持たせたりする。相手に「ありがとう」と感謝される経験が重なる



ジュニアボクシングコースでは、習得した技術によって認定証を伊田さんから直々に手渡す。「やればできる」を伝える工夫の一つだ



技術指導でも改革に取り組んだ。従来の「あごを引き、脇を締める」をやめて喉を緩め、首も鍛えない。試合直前は精神統一より笑ってリラックス。この新しい指導を始めたころに入会したのが、小学生だった入江選手だ。3年後、彼女を含む4人の小学生チャンピオンが誕生した。「なかでも一番鈍くさかったのが聖奈でした。でも、誰よりも努力家だった。私は、努力はすなわち時間

多くの人の支援を背負って一人で闘う。人生と同じだと思います。

だと思っています。聖奈は人の何十倍も時間をかけていました」と賞賛する。五輪金メダルの瞬間は「ほっとしましたね」と目を細めた。関わったすべての人に感動のある人生を

改めて伊田さんに、ボクシングの魅力を尋ねた。「ボクシングは一人では練習できません。でもリングに立つのは一人。多くの人の支援を背負って一人で闘う。人生と同じだと思えます。みんなの支えに感謝が生まれる。そして勝っても負けても自分の責任、勝敗がはつきりしているところが好きですね」。リングの外側から文句を言う資格は誰にもない。自分の人生を自分で生きているのだ。現在もシュガーナックルでは、有望選手が続々と成長中だ。練習メ

ニューを進化させ、国内屈指のトレーニング環境も整えた。だが「五輪は目標であって、目的は幸せな人生」と、伊田さんは考えている。その考えは、事業全体の理念にもなっている。伊田さんが代表を務める株式会社クリエイティブサポートは、シュガーナックルのほかに学習塾やフィットネスジム、リハビリ施設、温泉施設などを運営している。学力向上と健康寿命の延伸を柱に、地域活性化をめざす。夢は、関わったすべての人の幸せ。我が子が人々に誇れるような親になってほしいと願う。「身体を動かすと汗が出る。心を動かすと涙が出る。汗と涙が織りなす、喜怒哀楽豊かな感動ある人生を！」深く広い心で、人とも自分ともまっすぐに向き合う伊田さんは、まさに真のボクサーだ。